NIE実践報告

1．タイトル：**発信者の立場を探ろう　　～新聞の読み比べを通して～**

2．学校名

山梨県立巨摩高等学校

3．実践者名（代表者名）

秋山　あさ子

4．学年

３学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語表現Ⅰ（選択）　　１２１名

6．単元（本時の学習課題）名

10　情報の海を航海する　〈メディアのリテラシーへ〉　　ステップ２　新聞記事を読み比べる

7．目標（狙い）

一つの事実が発信者の立場によってどのように変容するかを学ぶことにより、メディアの特性を知り、情報を正しく判断する力を養う。

8．評価の視点

１　新聞によって報道の仕方に違いがあることを実感することができたか。　２　様々なメディアを通して情報を得る際に、発信者の意図を考慮に入れて判断していくことの大切さが再確認できたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

選択「国語表現Ⅰ」は2単位。「新聞読み比べ学習」は全６時間。これ以前に「コラムを使った学習」を4時間、この後に「新聞への投書」を２時間実施。これらを通し、メディアに対して意識的に関わることを学ぶ。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

１　本校で実施した「齋藤孝教授のＮＩＥ講演会」を扱った新聞2紙の記事を使い、見出しや 写真、記事の内容について、共通点や相違点、そこから受けた印象等について比較しながらまとめた。　（事前学習の1時間）
２　各班に１日分6紙を配布し、各自が1新聞を担当して「１面記事」の見出しや内容を調べた。　（１時間）
３　これをもとに、班内の6紙について「１面記事」及び「同一内容記事」を比較してまとめた。　（２時間）
４　これを各班が前に出て発表した。1面紹介は全員。「１面比較・同一内容比較」は代表者1名。　（２時間）
〈留意点及びその感想〉
・１については、実際に自分たちの体験したことが記事としてどのように表現されているかを確認させる好材料となった。特に、写真や見出しの扱いに新聞社の姿勢が表れていたのでそれを中心にまとめさせた。
・３では、「台風12号」を扱った記事が、６紙すべて１面トップ記事だったこともあり、違いがより鮮明に現れていた。各紙とも写真・見出し・取材先が見事に連動していたので、その点に注目させまとめさせた。
・４の発表については、ＮＩＥ報告会のための記録として、ＤＶＤ撮影を行った。それもあって、緊張の中にも真剣に取り組む様子が窺えた。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

事後アンケートでは、「新聞による報道の違い」を再確認し、「発信者の意図を意識した読みとり」を行おうとする姿勢が読みとれた。実際に様々な角度から分析してみることで予想以上の違いが確認できたようである。「他の新聞にも興味が湧いた」「社会へ積極的に目を向けていくことが大切なのだと思った」等。

12．成果と課題

一つの事実をどういった方向からまとめ発信していくかという編集者の意図が、実は客観的事象を読みとる際にも極めて重要であることを、情報の特性として再確認することが出来た。「実際に体験して得た実感」が今回の学習の最大の収穫であろう。この体験を、実生活の中でどこまで生かしていくことが出来るかが今後の課題である。